

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立八景中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

こころ豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成

自ら学び 自ら考え 自ら行動

2 今年度の学校重点目標

- (1) 命と人権の大切さを基盤にした教育の推進
- (2) 主体的・対話的で深い学びによる確かな学力の育成
- (3) 信頼関係に基づく生徒指導
- (4) 特別支援教育を根幹に据えた個に応じた教育の推進
- (5) 自己実現をめざす進路指導
- (6) 家庭や地域と連携した信頼と魅力ある学校づくり
- (7) 働きがいのある職場づくりの推進

3 総合的な自己評価

学校評価アンケートの結果では、4項目を除いて9割以上の肯定的評価を得ている。なかでも「進路指導」では、経年比較すると肯定的評価が5ポイント増しており、将来について考えるキャリア教育が浸透してきていると捉えられる。9割に満たなかった「部活動」「防災教育」「施設設備」「学校教育目標」については、PDCAサイクルにもとづき、教育活動のさらなる改善・向上に努めたい。

今年度、『地域で育つ中学生が、地域とともに地域を考え、地域を元気にする』の考えのもと、『ふれあい美化活動』を実施した。地域での活動の場を与えられた生徒たちの活躍もあり、地域からの評価も高かった。また、三田地域部会においての『トライやるウィーク』の発表、三輪地域部会においての『人権作文』の発表も大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できたと感じる。地域に見守り支えてもらえるように、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標に向かって、双方向の関係を築いていきたい。このように、まずは生徒を中心に据え、聞く姿勢を心がけて、協調・共感・協働で関わっていくことが、『目標や夢の実現に向けて挑戦することができる』学校づくりになると考え、充実を図りたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高く、学校の取り組みが充実していると感じた。9割に満たなかった項目においても、保護者の評価はいずれも昨年度を上回っており、生徒の評価も「施設設備」「学校教育目標」の項目以外は昨年度を上回る結果となっていることは評価したい。「施設設備」については、安心安全な学習環境づくりを第一に考え、対応を図って欲しい。「学校教育目標」については、中心的な柱として、『大切にしていること』を生徒にしっかりと伝えて取り組んで欲しい。

コロナ禍が続き、学校の教育活動に制限が残る中ではあったが、今年度『ふれあい美化活動』を実施した。地域での活動の場を与えられた生徒たちの活躍もあり、地域からの評価も高かった。また、三田地域部会においての『トライやるウィーク』の発表、三輪地域部会においての『人権作文』の発表も大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できたと感じる。今後も、ますます工夫を凝らして生徒や学校と地域をつないでいきたい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	わかる喜びと達成感を実感できる学習指導の工夫と授業改善により、基礎基本の定着と学びに向かう力の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでは、授業や学習相談を肯定する回答が多いが、家庭学習の取り組みには課題を残す。 兵庫型学習システムを国語、英語、数学で導入し、少人数で個々のつまづきに応じた指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業や研究授業を行い、「分かりやすい授業づくり」を目指し、授業力の向上に努める。 基礎学力が定着するように授業改善と課題提示の工夫を行う。 学習相談の在り方を工夫し、個に応じた対応や学習内容の精選を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を向上させ、家庭学習の定着を図るために、これからも引き続き個に応じた支援が必要に感じる。 肯定的な評価は高いものがあるが、自由記述にもあるように、欠席者や不登校生に対するフォローも用意していくことが望まれているように感じるので対応をお願いしたい。
	キャリア教育の充実、進路情報の提供、社会参画する機会づくりにより、自尊感情を高め、自己実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者において、肯定的評価は前年度より1年3ポイント・2年9ポイント上がっているため、引き続き将来に向けて明確な目標が持てるようなキャリア教育を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生より、働くことや学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設ける等、体験活動や社会に触れる機会の充実を図る。 2年生では、トライやるウィークでの活動を通して、将来について考え、学ぶことや働くことの意義を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より、生徒で5ポイント、保護者で8ポイント、肯定的な評価が増えており、引き続き系統立てたキャリア教育を積み重ねて欲しい。
生徒指導 いじめ防止	教育相談の充実を図り、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導とともに、不登校生徒や発達に係る支援の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート、保護者アンケートともに、生徒指導及び教育相談について肯定的評価の割合が90ポイントを超えている。 教育相談の時間をできる限り確保し、心のケアの充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教育活動を通して、成功体験につながる機会を増やす。 教育相談の期間でなくても、平素から相談しやすい環境の構築を図る。 SCやSSW等の専門の見地からの意見を参考に、不登校生徒へ丁寧に関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の関わりや声掛けなど、個別に対応して頂いているが、不登校生徒への対応には、専門機関との連携が不可欠に感じる。SCやSSW、子どもサポーター等人員配置を増やすことが必要ではないか。お費用に感じる。生徒理解に一層努めてもらいたい。 地域でもあたたかな見守りが必要に感じる。

	本校「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート、保護者アンケートともに、いじめ問題について肯定的評価の割合が高かった。 ・「いじめ対応チーム」で情報共有と方針決定を行い、組織的に対応し、早期に解決を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや教育相談を継続し、日頃より生徒に向き合う時間を確保する。 ・いじめ見逃しゼロをめざして、組織内の連携を丁寧に行う。 ・生徒との信頼関係を基にした相談しやすい環境の構築をめざし、聞くことと共感の姿勢を心がけて関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生徒との関わりを何よりも大切にしてほしい。 ・学校が、生徒にとって安心して学べる環境であるように、高評価を堅持してもらいたい。 ・肯定的評価していない9%の生徒の声を聞き逃さないように、教職員間の情報共有を徹底する。
研修 (資質向上)	特別支援教育の視点を生かし、個に応じた指導の工夫、すべての生徒にわかりやすい授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修は、「タブレットを活用した授業」にフォーカスして取り組んだ。 ・がんばりタイムや放課後の学習相談で、個々の課題に沿った学習支援を行い、基礎学力の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてと振り返りを提示するだけでなく、1時間の見通しを持って授業を受けられるような仕組みが必要である。 ・家庭学習の充実や不登校生の学習支援に向けて、アプローチしていく(オクリンクを用いた授業フォローなど)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業だけでなく、家庭学習の習慣が必要と考える。家庭学習には、保護者の理解や協力も必要である。適切な課題を提供し、評価する指導が必要と考える。 ・タブレットを効果的に活用し、視覚的な支援をこれまで以上に充実させてほしい。
	研修・研究体制の充実により、人権感覚・危機管理能力の向上、専門性と実践的指導力、課題対応能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会による状況分析及び把握を適切に行い、生徒につけたい力を検討して、組織的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業時に身につけさせたい力を校区小学校とも共有し、9か年計画で指導していく。 ・そのためにも、小中連携を充実させて、共同研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の育成には、学校だけではなく保護者や地域の協力がなくてはならない。小中連携とともに、地域との連携が必要であらう。
地域と連携 した学校 づくり	教育活動の公開や学校ホームページの更新など、積極的な情報発信を行い、信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校」では、コロナ禍で制限のある中での活動であったが、保護者、生徒のアンケートとともに95%を超える高い評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度好評を得た、『地域ふれあい美化活動』のように、学校と地域が一体となって取り組める活動を継続する。 ・地域とともに歩む学校づくりを進めるために、地域コーディネーターと職員による校内のコーディネーターが連携できる仕組みを構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『地域ふれあい美化活動』の取り組みはすばらしかった。学校と地域がともに進んでいく活動ができた。 ・コロナ禍であっても、地域部会での発表など、工夫を凝らした活動ができており、学校の姿勢がたいへん伝わってくる。 ・コロナ禍により地域でも代替わり等で実施がスムーズでない面が危惧されている。中学校の力を頼りにしているところがあるので協力してほしい。
	生徒が地域で活動する機会の充実や地域の教育力を生かした取り組みにより、連携と協働の学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・『地域ふれあい美化活動』の取り組みは、地域でも賞賛された。 ・各地域部会での『中学生の発表』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや学校だよりを効果的に活用し、適時適切な情報発信を心がけ、さらに充実させていく。 ・校外行事においても、生徒の活動の様子を、HP以外にメール配信によりタイムリーに伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子や生徒の様子をきめ細かく発信できていることが、信頼関係の構築につながっている。ぜひとも継続してもらいたい。 ・学校だよりは、生徒をどのように育てていくかがよく分かる。今後も、そのときに求められている情報を精査して、機を逃さず発信してもらいたい。